

令和4年度 第3回 小田原市社会教育委員会議 概要

- 1 日 時：令和4年11月29日（火）午前10時～正午
- 2 場 所：小田原市生涯学習センター本館 第2会議室
- 3 委 員：木村議長、笹井副議長、有賀委員、井上委員、高橋委員、中島委員、山本委員
- 4 職 員：鈴木文化部長、小澤文化部副部長、田村生涯学習課長、佐次図書館長、加藤教育総務課副課長、蓑宮生涯学習課副課長、藤澤生涯学習課副課長、遠藤生涯学習課副課長、三浦教育総務課主査、藤平生涯学習課主査
- 5 傍聴者：なし

6 概 要

1 文化部長挨拶

鈴木文化部長から挨拶をした。

2 報告事項

(1) 第三次小田原市子ども読書活動推進計画（案）について

資料1-1及び1-2に沿って、佐次図書館長から説明。

【木村議長】ただいま報告事項について、図書館長からお話があった。これについて何か質問等あれば、よろしくお願ひしたい。

【笹井副議長】本離れ、文字離れと言われる時代だが、子どもの頃から読書は大事だと改めて思った。コロナで家に居ることが多い状況で、本の中の世界を追体験でき、様々な人の気持ちもよく理解できるようになると考えると、改めて子どもの読書活動は大切なので、是非、それを実現可能な形で、計画を作っていただければと思っている。

【中島委員】最初に、市の会計年度任用職員という形で学校司書の配置を、全中学校・小学校にさせていただいて、非常にありがたく思っている。図書館の整備や運営、図書ボランティアの活用など、真にその方を中心に学校図書館が動いていると感じている。3ページの計画推進のための方策③の部分の「学校における読書活動の推進」は非常に理解できるが、「学校図書館との連携強化」は、

何と何の連携強化なのか説明していただきたい。

【図書館長】学校図書館司書の先生たちの連絡体として、小田原市の学校図書館協議会という組織がある。そういった学校の図書館の司書と我々の公立図書館との連携が、なかなか今まで取れていなかったという状況がある。この子どもの読書活動を推進するためには、公立図書館として何ができるか、どういった支援をしていくと、より活発化するのかという観点が大事だと考えている。まずはニーズ、課題の把握からスタートになるだろうが、今までできなかった部分を強化し、是非、そのような連携を進めたいと考えている。

【木村議長】駅前の図書館の利用率はどうなっているのか。

【図書館長】小田原駅東口図書館については、かなり利用されている。具体的な数字は持ってきていないが、アクセスの良さが非常に有効に働いていると考えている。高校生の利用が特に目立つ。一方、中央図書館の方の利用が伸びていない部分があり、その活用をどうすべきかはこれからの課題だと考えている。

【有賀委員】アンケートを見ると、学校図書館の利用回数は前回の調査よりも減少傾向であるという結果が出ている。要因としては、コロナ禍も考えられるが、先日全国の小中学校の1校当たりの図書購入費が年々減っているところから、図書の購入冊数も年々少なくなっているという調査結果を目にした。小田原市の学校図書館購入費については分からないが、魅力的な図書館とは、子どもたちが毎年新しい図書に囲まれて、読書に親しみやすい環境が整っていることが大切だと思うので、図書購入費は大切にしてもらいたい部分であると思う。今の小・中学校に端末が配備されて、簡単に検索できる良さもあると思うが、やはり確かな情報を調べる拠点として学校図書館の充実を図っていくことが大切であると感じた。

【山本委員】本を読む、という呼びかけはおそらくずっと続けていくことが必要だろうが、その呼び掛けだけでは響かない人が存在する。例えば他人のために本を読むということは意外とできるのではないか、例えば子どもたちが読書ボランティアという形で、自分では選ばない本を他人のために読むというのも良いのではないかと思う。また、障がいのある子どもを持つ母親たちがよく相談に来るが、どこでも静かにしなければならない、子どもの行動を制約しなければならないという状況に大きなストレスを感じて外出を控えてしまうと

いう話をよく聞く。毎日ではなくても、月に一回や数ヶ月に一回、「静かにしなくてもいい日」が図書館に設けられると、母親たちも気兼ねなく訪れ、子どもたちに本を読み聞かせる機会が得られるのではないかと思う。

【図書館長】有賀委員のご意見にあったとおり、図書購入費の拡充は非常に重要な部分である。公立図書館でもその辺りの課題は抱えており、引き続き地道に確保していくよう努めていく。ただ一方で、昔からある本をいかに提供していくのか、伝えていくのかということも大事だと思う。その辺りはブックリストでお薦めしたい本などを届けていけるようなことを考えている。また、子どもに対してのタブレットの配布が学校で行われているということについては、今年度、電子図書館事業をスタートさせた。インターネットがつながる環境であれば、学校内でもタブレットなどを使って本を読むことができ、対象資料も大人向けだけでなく、小学生向け、あるいは幼児向けの絵本などもあり、そういったものも本に親しむきっかけづくりとして活用してもらえればと思う。

山本委員からのご意見の中で、図書館内で静かにしなければならないと感じる母親たちがいるという点については、我々も公共図書館の運営の中で課題の一つと認識している。静かにしてほしいと望む利用者がいる一方で、子どもを連れた母親たちはそれに対して気兼ねを感じてしまう。この問題は難しい課題だが、3ページの(4)「計画推進のための方策」の②、取り組みの一番下に「子どもや子育て世帯が気兼ねなく図書館を利用できる意識の醸成」と記載してある。この辺り、利用者は様々な立場の人々であり、お互いに譲り合い、配慮し合いながら利用できる意識を醸成するような働きかけを考えていきたい。

【井上委員】小田原市が学校に年間どの程度の予算を投じ、本が購入されるのかは分からないが、うちの学校においてはPTA会費の一部を使用し、毎年概ね10万円以上の資金で新刊本を購入している。図書の内容や種類については、全てを司書の先生に任せている。PTAとしても会費の使途を明示するのが最善だと考え、学校図書館の購書状況を会員に共有する意向である。しかし、実際にどれほどの金額が小中学校に毎年計上されているのだろうか。

【図書館長】学校図書館の図書配置については図書館側では把握することが不可能であ

る。だが、全国的な視点で見れば、学校図書館の図書標準、つまり、児童の人数や割合に応じてどれだけの本を配置するかの標準が示されており、この達成率が課題となっているという話は耳にしている。学校図書室の本を充実させていくための取り組みについて、PTA 会費を使用している学校もあるだろうというのが現在の理解である。

【井上委員】PTA 活動による資金調達、例えばベルマークやバザーが行われた際に、子どもたちにとって学校が何を欲しているか尋ねると、体育館のマットやクラスごとにボールなど、教員が必要としているものが市からなかなか提供されていないという情報が得られる。この点から、図書の購入については小田原市からどの程度の予算が投じられているのか気になり、尋ねてみたいと思った。

【木村議長】学校図書館の運営について最も理解しやすい説明は、図書館が本を揃えるのか、またそのための予算がどの程度あるのかという点を明らかにすることだろう。

【加藤副課長】現状としては、教育委員会から本や備品など学校運営に必要な物品を含め、配当予算という形で児童生徒の規模などを考慮しつつ配当している。額は学校により異なるが数百万円程度である。そしてその使途については、学校運営において授業に必要な備品を購入する等である。教育委員会としては、財政的に厳しい状況の中、大元の配当予算を増やすことができていない。先生方への配慮が十分でないことは理解しているが、PTA や民間企業からの寄付もある。寄付金は図書に当てて、それを生徒に提供するという方針にしている。先日、民間企業から寄付を頂いた際には、全校の図書代として配当することになった。全体のパイを増やすことが課題であり、教育委員会として財政的な方針をどう定めるかが現在の議論の焦点である。

【井上委員】理解できた。もう一つ質問がある。計画推進のための方策として、「家庭における子どもの読書活動の推進」の一部に「家庭教育講座との連携」が挙げられているが、この家庭教育講座とは何か、どのような連携を行うのか教えていただけるか。

【図書館長】確かに、家庭教育講座は図書館の所管ではなく、生涯学習事業と認識している。テーマによっては図書館事業と連携が取れると考えている。内容やテーマによっては図書館としても読書活動の推進につなげられると思っている。

【井上委員】家庭教育講座の内容は何か。

【蓑宮副課長】現在、生涯学習課で行っている家庭教育講座は、各学校の PTA が主体となり、「家庭教育学級」として講師を招いて講演してもらう形式である。講師への謝礼は生涯学習課から出している。

【井上委員】家庭教育講座が学校で開かれる際に、図書館とどのように連携するのか。

【図書館長】図書館としては、例えば今回のような家庭内での読書活動推進というテーマで講座を開きたいという場合、我々が協力できる点や相談に乗れる点があれば、それを提供できると思っている。多様な連携の可能性があると考えている。

【井上委員】理解できた。

【有賀委員】調査によれば、全国平均での 1 校あたりの図書購入費は、小学校が 54 万円から 47 万円、中学校が 68.9 万円から 59 万円である。文部科学省は学級数に応じて学校図書館の必要な蔵書数の基準を設けているが、その達成率は中学校で 60%程度であるという。

【木村議長】基本方針の部分で、「全ての子どもたちが素晴らしい本との出会い、機会の提供」を目指すような文言に、障がい者の言及も含めるべきではないか。

【図書館長】その部分については、資料 1-2 の 13 ページに「支援を必要とする子どもの読書活動の推進」という項目を設けている。具体的な内容としては、電子書籍の中に音声読み上げ機能を持つものを取り入れることにより、視覚に課題を持つ子どもでも、音声読み上げを通じて本を読む、本を聴くことが可能である。また、ここには入っていないが、LL book という種類の本もある。これは日本語が母語ではない子どもにも内容が伝わるように工夫された本である。そういったものも視点に入れ、支援を必要とする子どもに対する読書活動も取り入れられると考えている。これらの要素は計画の中に組み込まれているので、ご理解いただければと思う。

【木村議長】理解した。

【山本委員】予算の観点からすると、予算に限りがあるので新書を購入できないときは、司書が腕を振るうべきところだと思う。小田原には多くの古書があるので、この古書を強調するような見せ方をするだけでも、新書がない部分を補うことができると思う。もし新書があれば、それを増やせるのはラッキーだと思う。

う。

【図書館長】新しく出る本はやはり重要だと思うが、昔出た本が新たな装丁で再出版されることもある。そのような本も上手く伝えられるように工夫するべきだと思うている。

【木村議長】図書館についてはこの辺でよいだろうか。次の報告に進みたいと思う。

(1) 研究報告書「地区公民館の役割を再生する」概要版について

資料2に沿って、田村生涯学習課長から説明。

(質問等なし)

3 協議事項

社会教育委員会議の調査研究テーマについて

資料3, 4, 5, 6に沿って、蓑宮副課長から説明。

【木村議長】今回の事務局案は説明にあった通り、教育委員会で改定作業中の小田原市教育振興基本計画との関連があるため、オブザーバーとして担当課の教育総務課加藤副課長と三浦主査に前回に引き続き参加してもらっている。では、次回から具体的な協議に入ることを念頭に置きつつ検討していきたいと思う。まず意見のある方、発言の方、よろしくお願ひしたい。今、事務局から話があったように、来年の2月に協議を始めるが、「多様性を認め合う学び」「生涯健康であるための学び」「自分らしく自立するための学び」「命を守る学び」「みんなで子どもを育む学び」という形で5つの視点を出してもらった。それぞれについてはスケジュールどおりに協議していくつもりだが、今日はこれを一通り見てもらい、発言してもらいたい。それぞれの項目については、次回以降、進めていくつもりである。

【有賀委員】5つの視点のことだが、「社会力の育成」のために目指す姿として、資料5の15ページの左側に、「学ぶ力」「豊かな心」「健やかな体」「関わる力」の4つが掲げられていると思う。その裏面、16ページの表の右側に、その重点方針が書かれている。新たに検討する5つの視点、表では(3)から(9)となるが、その重点方針を見てみると目指す姿の一つである、「学

ぶ力」に触れていない、欠けているのではないかと思った。今回のテーマは「新しい生活様式を踏まえた社会教育生涯学習のあり方とその可能性について」だから、テーマにも「生涯学習のあり方」と明記されているし、そのテーマの目指すところにも「生涯学習の学びという視点を加える」ことが述べられている。したがって、新たな5つの視点について、基本施策の1の「生涯学習の振興」も考えてもいいと思う。そうすれば、今未だ触れていない重点方針の「学ぶ力」の方向性が見えてくるのではないかと感じる。

【**蓑宮副課長**】今回、以前にいただいた答申の内容と比較する中で、これまであまり触れていなかった部分を中心に挙げさせてもらったが、その生涯学習の学ぶという部分は中心的な部分であるため、この部分も加えるよう検討しようと思う。

【**笹井副議長**】今話題に上がっている件に関しては、資料3の5つの視点というものがある。そして、「学ぶ力」というのは、これら全てに関わってくるのではないかと思う。

【**蓑宮副課長**】元々生涯学習の振興の部分、生涯学習の学ぶという部分が、本当に根幹に関わる部分で、これまでも検討を重ねてきた。それに加えて今回、5つの視点を新たに、これまであまり触れられていなかった部分を中心に挙げたという考え方である。

【**有賀委員**】分かった。全てに関わるということであると理解した。

【**笹井副議長**】この5つの視点は、個人的な意見として非常に良くできていると思うし、驚いている。非常に現代的な課題性を持っていて、しかも、SDGsとリンクし、さらに、教育振興基本計画とも連携している。よく考えて作られたと感じる。ただ、この新しい生活様式を採用すると、どこまで具体的に描けるのかという疑問があるが、このような枠組みで検討するというのは、私は賛成だ。

【**木村議長**】前回平成26年の答申を作った時も、私が議長を務めていたが、「健康」ということは一切頭になく、「スポーツ」などは無視だった。今回は、テーマを5つに絞り、事務局で考えてもらったところ、平成26年の答申になかったものが、今回は出てきている。これが一つになると、ようやく完成形になるのかと、私自身は思うが、皆さんはどうだろうか。

【高橋委員】「生涯学習の振興」がメインテーマなら、それを補完する5つのテーマで捉えていいのか。

【蓑宮副課長】大きなテーマとして示したのは、「新しい生活様式を踏まえた社会教育・生涯学習のあり方とその可能性について」で、そのテーマの中には、生涯学習がメインテーマになっているが、それを以前の答申ではあまり触れなかった部分で補っていくという形で考えている。

【木村議長】鎌倉市は、生涯学習で「防災」を取り上げている。県の会議などを見ると「防災はいい」と言うが、小田原市では防災対策課がやっていて、「生涯学習で防災」というのはどうなのかと思っていたが、今回、「命を守る学び」という形で一つの視点として出てきたので、次の会議があった時には「うちの方もこんな感じで入れたよ」と言えると思う。

【高橋委員】鎌倉は相模湾に津波が入ってきたら大きな被害が出る地域なので、小田原以上に防災が自ずと生涯学習、全てに結びつくという原点と捉えているのだと思う。

【蓑宮副課長】防災の話が出たが、今回「命を守る学び」としたのは、新型コロナウイルス感染症の拡大も一因で、今後、新たなパンデミックが発生する可能性もあり、当然、防災、つまり自然災害への対応というのもあると思う。これを若者や高齢者、外国人も含めて、皆でどのように考えていくのかというところが、生涯学習の視点から大事だろうと思い、このように入れたという考え方である。

【木村議長】コロナのせいで様々な状況が一変したが、地域も少しずつは動き出している。それでも、何かやるとなると、結局、賛成派と反対派が避けては通れない。今、小田原市もツデーマーチを始めたが、5月の北条五代も始めたりと、少しずつは動いているが、やはりまだ本格的ではない。参加者がコロナにかかったらどうにもならないので、その辺は理解しているが、皆で何か少しずつでも、良い方法を考えながら進めていかなければ、コミュニティが次第に薄れていく、或いは破綻する。自治会も、公民館活動も「やろう！」と言えば動く。やはり「やろう！」という声で動かなければ、コミュニティはなかなか維持できない。慎重な意見もあるが、やはり皆で知恵を出しながら何かやっていくしかないのかなと思う。コロナはこれからも続くのだろうと

考えている。そのように考えると、この5つの視点を皆で今の時期、考えると、新しい病原体が出てきた時も対応できるのだろうと思う。

【山本委員】取りこぼしが無いと言うと、それは一つ一つの項目だけでも、果てしない難題であると感じている。ファミリーサポートセンターでの活動の中で、「平等」というのが非常に難しく、その人それぞれの背景による平等というのは、行政で実現するには極めて難しいと感じている。例えば、先程の「静かにする」という事柄もそうだが、静かにすることができない障がいを持っている子にとっての平等とは、静かではない環境で自由にさせることであり、静かにしたい子どもたちにとっては、それが不平等に感じられることもある。ただ、単純な声を聞いて、それに対してのリクエストに、ある程度、大体6割ぐらい応えられると、理想的なのではないかと、これを見て思った。

【木村議長】中島先生、何かあるか。

【中島委員】平成26年の答申を拝読したが、言葉の使い方は本当に上手いと思い、そのタイトルのあり方もよくわかった。この答申にないものという形で、この内容は次の答申に載らないのだろうか。それとも、これを附記することになるのか。

【菘宮副課長】今回については、あくまで答申を改正するという考え方ではなく、答申は答申で26年に作らせていただいたものがあり、そこから8年が経過したところで、いろいろと状況も変わってきている。そこで触れられていなかったことを今回、議論をしていただきたい。その材料としては、各課の取組があり、それを具体的な例としながら、今回の教育振興基本計画の改定を行い、その計画が実行されていくためのヒントやアイデアをいただきたいと考えている。

【中島委員】ちなみに、本校の図書予算は、先程調べた結果、令和元年から4年間で455万円だった。

【加藤副課長】去年の決算は、今、校長に確認していただいたが、中学校の平均は11校トータルで725万円が図書に投じられている。1校当たりでは、おおよそ65万円程度である。各校で備品購入など、バランスがあるので、おおよそこの金額になる。小学校は、全体で916万円で、25校なので、おおよそ1校36万円程度のイメージで進んでいる。全国平均と比較すると中学校は順調に推移

しているが、小学校はまだまだと言った状況である。繰り返しになるが、全体の予算が限られているので、学校内でどう使っていくかという問題もある。

「図書にこれだけを使ってください」と指示することは難しいところだ。全体の予算を増やすことができれば、学校でももっとできると思うが、そこに手が及んでいないのが現状だ。

【井上委員】親として「家庭教育への支援」の詳細が分からないが、どのようなことを計画されるのか、伺いたい。

【蓑宮副課長】家庭教育への支援というのは、現在市が企画している家庭教育講演会や、各 PTA で行われている家庭教育学級などである。また、他の事業と融合している部分もあり、例えば、防災関係などでは、地域が参加するようになったりする。家庭教育への支援は、学校、行政、家庭、地域、それぞれが支え合うというのが大切になるので、行政や学校側からの支援に加え、地域からの支援なども考えられると思う。

【井上委員】「家庭学習への支援」は、どういったものなのだろうか。

【蓑宮副課長】家庭学習の支援というのは、具体的には、資料 5 の 23 ページに記載があるが、ここで挙げている「家庭での ICT を活用した学習の支援」や、「家庭学習の手引き等を通じた学習支援」などが市の主な取り組みであり、これらのより良い活用などが具体的な内容となると思う。

【有賀委員】家庭教育支援という領域における活動について述べると、私の活動先である放課後子ども教室は、10 月から運営を始めている。現在、全ての小学校で毎日行われているわけではないが、放課後に宿題の支援を行っている。一時間から一時間半の時間枠で、子供たちは宿題や学校の課題、音読を終えた後、家に帰るという流れである。支援としては大きなものではないが、子どもたちと交流したり、ふれあいの時間を持つことで、楽しみながら取り組んでいる。可能であれば、活用していただければと思っている。

また、家庭教育支援の(1)に「おだわらっ子の約束の普及と実践」が記載されているが、私が主任児童委員として関わる子育て広場でも「おだわらっ子の約束」を取り入れている。開始時には「おだわらっ子の約束」の歌を歌う。若い母親から「この歌は何ですか？」と尋ねられたことがあったが、それを聞いて、「おだわらっ子の約束」を知らない世代が増えていると感じ

た。この約束の普及や実践を進めるためには、その背景や実践方法などをより意識することが求められるのではないだろうか。家庭教育にこの約束を結びつけるためには、家庭や学校、地域と連携して共通の認識を築く時期に来ていると感じる。この「おだわらっ子の約束」がいつ策定されたのか、具体的にはどの程度前のことなのか。

【加藤副課長】「おだわらっ子の約束」は約15年前から始まったものである。市民の皆様と協働して、子どもたちのルールや約束事を決める活動が行われてきた。経過した年月を考慮し、周知の方法として看板を設置するなどの取り組みが行われている。有賀委員から歌の話があったが、我々も歌の存在を再認識し、歌を用いる取り組みも行っている。実際に子育て広場で歌を歌っていただいていることを知り驚いたが、現在進行中の教育大綱と教育振興基本計画の見直しでは、家庭教育という領域を超えて、「おだわらっ子の約束」を再度見直し、普及の推進を図る方向で来年度から動き出す予定である。家庭教育の中での一役としては、子どもたちや親、地域と連携して子どもの育成を支援するものであると考える。その前提として、「おだわらっ子の約束」があればよいと教育委員会として考えており、何らかの形で取り組んでいきたいと考えている。

【山本委員】現在、家庭教育が家庭で行えない時代になっている。ファミリーサポートセンターの活動を通じて感じることだが、母親が障がいを持ったり、精神疾患を抱えたり、シングルであったりする場合、本来家庭で行うべき教育を地域が代わりに行ってくれることは、親にとってありがたい。また、子育てについて遂行できない親からすれば、罪悪感を軽減する効果もあると感じる。

【木村議長】皆様から数多くの意見が出されている。それらを事務局で整理し、次回に向けて可能なこと、不可能なことを検討したい。今日の協議内容を踏まえて、事務局に準備を依頼する。また、今回は先に申し上げたように、テーマについての協議に移行したい。その際には皆様の協力をお願いしたい。それでは事務局から連絡事項等何かあるか。

【事務局】次回の会議は来年の2月に予定している。開催の案内と資料を送付するので、次回もよろしくをお願いしたい。

【木村議長】では、本日の社会教育委員会会議をここで閉会する。